

介護老人保健施設

老健ホームいしかわ

きらめき



老健ホームいしかわ「新年会 ランチの様子」

ワクチンによるあたらしい社会生活への希望

2020年は新型コロナの感染拡大で社会環境が変わって個人生活も大きな影響を受け、まさにコロナ禍ともいえる状況であった。老健ホームいしかわでも、入所者とご家族の面会を制限せざるをえなくなり、職員もマスクや手洗い・消毒を徹底するなど緊張の日々が続いている。世界では、アメリカやヨーロッパの甚大な被害に比べて、韓国や台湾など東アジア諸国では感染者数や死亡率が低い水準となっている。これまでわが国で欧米ほどの感染被害がでない理由のひとつに、初期の段階から高齢者施設でコロナ対策を始めていたとの指摘がある。この感染症の重症化は、糖尿病、高熱、低い酸素飽和度、重度の心臓損傷の4つの症状と関連があるとの研究報告があり、介護施設には肺や心臓の慢性疾患のある人も多く、この高齢者集団を守ることが重要となっている。最近アメリカと英国で高い効果のワクチンが開発されたという明るいニュースがあり、当初から予想されているように何度か流行の波を繰り返して収束する見通しがたったように思われる。これまで人類は、ウイルスに対して1796年の種痘を始めとするワクチンで予防する免疫の方法で闘ってきた。新型コロナウイルス (COVID-19) に対するワクチンは、これまでとは全く異なる作用機序によるもので、1953年のワトソンとクリックの遺伝子の二重らせん構造の解明によってはじめて実現できたものである。久しぶりに雪の新年を迎えた北陸は、令和の典拠となった万葉集の重要な舞台である。万葉集最後を飾る歌は、当時の歴史的背景からいつか藤原全盛期が終わって明るい未来への願いを込めた大伴家持の歌とも解釈でき、コロナ禍の収束を祈るにふさわしい和歌ではないでしょうか。「あたらしき年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉事」

施設長 吉本 谷博

「おいしい」と「楽しい」のある食事の幸せ

2020年、老健ホームいしかわでは「食の楽しみを味わっていただく」「季節感を感じていただく」ことをテーマに、趣向を凝らした企画を続けてきました。今回は2020年12月・2021年1月の企画を、入所者の表情と合わせて紹介したいと思います。

2020年12月 クリスマスランチ

クリスマスはやはりチキン。主食は焼きそばとお好み焼きのセットでした。



おやつ クリスマスケーキ

3種類のケーキに生クリームと果物を添えて「どれから食べようかな」。



2021年1月 新年会ランチ

握り寿司と黒豆・玉子焼きでおせち風に。新年を迎えた喜びを味わいました。



普通食



ソフト食

おやつ おでん

施設の中庭で作った大根をメインとした3種類のおでん。心身とも温まりました。



入所者は貼り絵などの装飾や展示作品の作成、書字などに励んでおります。また棟ごとに分け、風船バレー大会などの催しも行われています。日常生活の様子は順次ホームページに挙げていきたいと思っております。



リハビリ頑張っています！

一人一人の身体状況に合わせ、リハビリ職員と一緒に様々なメニューを行っています。
熱心に取り組む中にも笑顔が見られ、とても良い雰囲気です。



園芸療法に取り組んでいます



園芸作業は、歩く、座る、立ち上がる、たがやす、掘る、水をまく、草をとる、収穫する、運搬する、洗うなど数多くの動作を必要とするため、身体面でも運動能力や体力の維持増進に効果が期待できます。
精神面でも、満足感や達成感、気分転換やストレス発散、思考力や想像力の向上、記憶力の改善など、あらゆる効果が期待できます。



コロナ禍に思うこと

2020年は新型コロナウイルスに翻弄された一年となりました。

感染は次第に拡大し、世間では医療体制や経済の危機、医療・介護従事者への偏見といった暗いニュースが現在も続いています。

そのようななか、老健ホームいしかわも「新しい生活様式」に戸惑い、何度も立ち止まり、深く考えさせられました。今まで当たり前に行われていたご家族の面会にも制限を行い、ボランティアの受け入れも見合わせました。また職員は「新型コロナウイルスを施設に持ち込まない、広げない」ことを使命に行動しています。



ノータッチで手洗い・アルコール消毒ができます



あっという間に自動検温できます



消毒液を携帯し「1ケア1プッシュ」を徹底しています



スリッパを殺菌します



施設各所に空気清浄機・サーキュレーターを配置しました



スカイプでの面会を始めました「おーい！元気だよ」

様々な制限が強いられている日常生活と同様、施設生活においても入所者様やご家族様には多大なご心配とご不便をおかけしております。「できないこと」に目が行きがちですが悲観的になるのではなく、「今、できること」を考える。普段から入所者様の身体動作状況を「できなくなったこと」ではなく「できていること」を強みとして着目する、私たち職員の日々の取り組みに通ずるものです。コロナ禍ではありますが「できること」を見つけ、前向きに皆様のお手伝いをしていきたいと思っております。